

## 令和4年度みんなで支える森林づくり地域会議の開催状況

地域振興局	回数	開催日				主な内容	概要	ページ
佐久	第1回	令和4年	7月	28日	(木)	・令和3年度事業実績報告 ・令和4年度事業計画説明 ・次期森林づくり指針 ・現地視察	作成中	
	第2回	令和5年	2月	20日	(月)			
上田	第1回	令和4年	8月	書面		・令和3年度事業実績報告 ・令和4年度事業計画説明 ・時期森林づくり指針など	作成中	
	第2回	令和4年	11月					
諏訪	第1回	令和4年	6月	22日	(水)	・令和3年度事業実績報告 ・令和4年度事業計画説明 ・次期森林づくり指針	○	1
	第2回	令和4年	10月	～	11月			
	第3回	令和5年	2月	～	3月			
上伊那	第1回	令和4年	7月	27日	(水)	・令和3年度事業実績報告 ・令和4年度事業計画説明 ・次期森林づくり指針	作成中	
	第2回	令和4年	11月					
	第3回	令和5年	2月					
南信州	第1回	令和4年	7月	25日	(月)	・令和3年度事業実績報告 ・令和4年度事業計画説明 ・次期森林づくり指針 ・現地視察	作成中	
	第2回	令和4年	9月					
	第3回	令和5年	2月					
木曾	第1回	令和4年	9月	5日	(月)			
	第2回	令和5年	2月					
松本	第1回	令和4年	9月					
	第2回	令和4年	11月	30日	(水)			
	第3回	令和5年	2月	22日	(水)			
北アルプス	第1回	令和4年	7月	11日	(月)	・令和3年度事業実績報告 ・令和4年度事業計画説明 ・次期森林づくり指針 ・現地視察	○	6
	第2回	令和5年	2月					
長野	第1回	令和4年	8月	22日	(月)	・令和3年度事業実績報告 ・令和4年度事業計画説明 ・次期森林づくり指針	作成中	
	第2回	令和4年	12月					
北信	第1回	令和4年	8月	5日	(金)	・令和3年度事業実績報告 ・令和4年度事業計画説明 ・次期森林づくり指針	○	14
	第2回	令和5年	2月					

## 令和4年度 第1回みんなで支える森林づくり諏訪地域会議 議事録

開催日時：令和4年6月22日（水） 13時30分から15時まで

開催場所：諏訪合同庁舎502号会議室

出席者：【構成員】（五十音順、敬称略）

牛山 輝明、片倉 正行、中村 くすみ、藤森 良隆（座長）、松下 妙子、宮坂 佐知子

【事務局】

（諏訪地域振興局）

宮原 渉 地域振興局長、鎌田 宣之 林務課長、山城政利 林務係長、宮原 登 主任

久保田 淳 普及林産係長、鈴木 直人 森林保護専門員、吉山 芳幸担当係長

（諏訪建設事務所）

宮本 吉寿 維持管理課長

【林務部】

坪井 俊文 林務部次長、日詰 究 主査

要 旨：

### 会議事項（1） 令和3年度の取組実績について

（事務局）

資料1により説明（説明者：山城、久保田、宮原、吉山）

（松下構成員）

八ヶ岳山麓・薪活用プロジェクトで実施した講演のYouTube配信の再生回数はどのくらいであったか。

（事務局）

91回である。

（片倉構成員）

諏訪建設事務所で実施した観光地の周辺における街路樹整備事業について、岡谷茅野線の桜の剪定を実施したが、森林税活用事業であることを積極的にPRすべきである。

（藤森座長）

ご意見のとおりである。これまで手が入りにくかった樹木に対して、森林税が活用されているが、有効性についてご意見をいただきたい。

（片倉構成員）

このような市民や観光客に直結する樹木のある場所に活用されることは大変効果的である。

（藤森座長）

薪によるエネルギーの地産地消推進事業における八ヶ岳山麓・薪活用プロジェクトで、北山小学校の取組が紹介されたが、原村の学校におけるストーブなどの燃料はどのようになっているのか。

（牛山構成員）

数年前に建て替えたときに、木質バイオマスである薪ストーブ導入計画があったが、化石燃料との

コスト比較で実現できなかった。

(松下構成員)

北山小学校の薪作り体験会は、学校、クラス等どのような単位で実施されたのか。

富士見町でやまほいくを運営しているが、昨年度購入した山林で、森林整備や薪作りなどを考えており、知識として教えていただくのも学びではあるが、体験することで学ぶことも大切であると考えている。体験した小学生たちがどのような感想を抱いたのか今後の活動の参考までにお聞きしたい。

(藤森座長)

L C V特別番組の制作の際に、北山小学校の校長先生とともに参加させていただいているが、学校全体での体験は規模的に難しかったとお話があったと記憶している。

(事務局)

北山小学校の5、6年生が参加し、山の中の作業で非常に喜んでおり、特に木が倒れる瞬間は歓喜していた。また、薪にしていく過程も興味深く作業をしていた。

(中村構成員)

森林づくり推進支援金で実施した茅野市永明寺山公園の森林整備事業について、私の子供たちが息子や娘を連れて公園に久しぶりに訪れたところ、非常にきれいになっており眺望もよかったと喜んでおり、私にも行ったほうがいいよと勧められた。きれいに整備したことで、訪れる人も増えてくると思うので、整備した効果があったのではないか。

(藤森座長)

非常にお褒めのご感想をいただいた。

富士見町では、松枯損木伐倒処理を実施しているが、ご意見を伺いたい。

(松下構成員)

富士見町では、あまり松枯損木を目にすることがないが、地域会議に参加させていただいて、隣県からの侵入防止のため富士見町のご努力を知ることができた。長野に向かう車中で、激害地を目にすることがあるが、各市町村が個別の課題解決のために取り組めるのはよい仕組みである。

(藤森座長)

富士見町における松枯れは、標高でどれぐらいまできているのか。

(事務局)

昨年度、管内で松くい虫被害報告があったのが、岡谷市で5本であり、標高としては1,400mを超えている場所もある。

(藤森座長)

富士見町は、松枯れではあるが松くい虫とは認定されていないのか。

(事務局)

枯損木から採取した検体を林業総合センターで検査しているが、今のところ富士見町では確認されていない。

(松下構成員)

被害を食い止める作業も大変だが、枯損木を発見することも大変ではないか。

(事務局)

各市町村で巡視を行っており、枯損木の報告に基づき対応している。

(藤森座長)

防災・減災対策緊急治山事業について、ご意見があれば伺いたい。

(中村構成員)

令和3年9月豪雨災で被災した経験から、災害はいつ起きるかわからないとは認識していたが、沢から離れていたのだから気にかけていなかった。防災については、普段から気にかけて準備しておくことの大切さを実感した。これまで、伊勢湾台風による小規模崩落や昭和57年に少し氾濫した程度であったが、山もただ大きくなっただけの木であったり、集中的に降る雨など環境の変化を感じている。

本格的な復旧はこれからになるが、少しずつ取り組んでいきたい。

(藤森座長)

貴重な体験談をお話しいただき感謝します。一日も早い復旧を願っております。

(片倉構成員)

岡谷市から茅野市にかけての西山地域は、昨年度の災害で大きな被害が発生した。こういった地域に、公共事業で対応できない部分を、森林税を活用して積極的に対応をしていただきたい。

(松下構成員)

森林税は、一人当たり500円の徴収で6億9千万円余であり、税事業はどれも大切で教育的な支援や人材育成、防災・減災のための森林整備など多岐にわたっており、今後も予算措置の必要性は増してくると思うが、実際に事業を執行している方々は、500円の費用負担で十分と感じているのか。

(林務部)

森林税は、平成20年度から導入されて、平成30年度から第3期となっているが、個人一人当たり500円を超過課税でいただいている。第1期、第2期は里山の間伐を中心に森林整備を実施したが、第3期の検討において、教育利用の推進や景観形成のための森林整備など多岐にわたる事業体系となるなか、第2期から第3期の前半にかけて税収を下回る執行が続いたが、昨年度、一昨年度の執行額が約10億円となり、今年度末には税収による基金残高がほぼなくなる予定である。

(松下構成員)

この会議に参加し事業への理解が深まり、普段から自然に近い場所で生活をしていると、500円では安いと感じている。住民の視点から見れば森林整備には多額の費用が必要であるが、まだまだ理解されていないと思うので、しっかりと周知していただき、県民の皆様が満足して納税できるようにしてほしい。

森林税は、納税した効果が見えやすく、子供たちが税の仕組みを勉強するわかりやすい教材である。

(林務部)

森林整備には、国庫補助事業の活用や森林環境譲与税などの財源もあるが、森林税を活用して緊急的に取り組むべき課題等を整理しながら検討を進めてまいりたい。

森林税の理解促進については、片倉構成員のご指摘も踏まえ、取り組んでいきたい。

(藤森座長)

冒頭で片倉構成員からのご意見にもあったように、しっかりと周知していただければより理解が

深まるのではないか。

様々なご意見をいただいたが、令和3年度の取組実績について、地域会議として了承する。

(異議なし)

## 会議事項(2) 令和4年度の事業計画について

(事務局)

資料2により説明(説明者:山城)

(藤森座長)

6月現在の計画内容であるが、地域会議として了承する。

(異議なし)

## 会議事項(3) 次期森林づくり指針について

(林務部)

資料3により説明(説明者:坪井林務部次長)

(片倉構成員)

区有林の整備に関わっており現在最終間伐を行っているところであるが、皆伐後のことを考えると先行きが不安である。50年前は、林業従事者が多く、下刈りなどの保育がしっかりとできたが、担い手が減少している今では保育ができるのか不安であることから、林業の担い手対策にしっかりと取り組んでいただきたい。

(宮坂構成員)

建築に関わっており県産材の利用に注力しているが、供給体制が整っていないのが現状である。

県産材の活用に当たって補助金も交付されるが、価格が高いなど循環の仕組みがうまく回っていない。林業や建築関係者、住民が協力しながら山の産物を活用する仕組みづくりをする必要がある。

また、例えば防災の観点からも山の危険個所がどれくらいどこにあるのか住民は知らない。

100年先のビジョンを具現化するためにも、森林に関する情報を研究する分野にも予算を充たすべきではないか。

(藤森座長)

非常に大事な意見である。例えば、子供がアイスを買うように、県産材もどのようにしたら入手できるのか明確な仕組みづくりが必要なのではないか。

(牛山構成員)

昨年度から村有林のカラマツの更新伐を始めたところであり、対象は240haで、毎年4ha伐採すれば60年で更新できると計画したが、住民からの指摘を受け2haに変更した。

今は更新後、カラマツがいいのか、針広混交にするのか、何を植栽するかで思慮しているところであり、将来しっかりと循環するような長期を見据えたマニュアル的な指針があるとありがたい。

(林務部)

今植えられているカラマツも当時は、電柱用材とするために成長の早いカラマツが植えられた。今は、合板や集成材の重要な原料となっている。当時、今の状況を予想できた人はいない。これと同じように何十年先の需要を予想するのは難しいが、次期指針では、木材生産に適した場所ではしっかりと

と生産していく方針をこれまでの指針より打ち出す予定である。個別の山づくりの進め方は地域振興局も一緒になって考えさせていただきたい。

(事務局)

先週、現場を拝見させていただいたが、次世代を考えた森林づくりの方針に感銘したところであり、今後とも深く関わらせていただきたい。

(藤森座長)

構成員の皆様からは、非常に活発かつ貴重なご意見を多くいただいた。

森林税を中心に議論をさせていただいたが、これだけ浸透してきた森林税をぜひ継続をしていただくようお願いします。

事務局におかれましては、本日の意見を事業執行に反映させていただきますようお願い申し上げ、議事を終了します。

# 令和4年度 第1回 みんなで支える森林づくり北アルプス地域会議 概要

日 時:令和4年7月11日(月)13:00~16:40

場 所:長野県大町合同庁舎 講堂

〔出席委員(敬称略 五十音順)〕 7名出席

荒山 あゆみ、鈴木 幸佳、橋本 拓、福島 百子、宮澤 洋介、山田 久志、割田 俊明

## 1 開会

### 2 あいさつ:北アルプス地域振興局長 早川 恵利

皆様こんにちは。北アルプス地域振興局長の早川恵利と申します。この4月より務めさせていただいております。本日は、今年度第1回目の「みんなで支える森林づくり北アルプス地域会議」を開催しましたところ、御多忙の中、御出席いただきありがとうございます。また、ご参集の委員の皆様には、常日頃からそれぞれのお立場で北アルプス地域の振興にご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

ご案内のとおり、新型コロナウイルス感染症がなかなか終息しない状況でございますので、感染拡大防止策に万全を期しながら、会議もできるだけ短時間で終了できるように努めてまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。

さて、この地域会議ですが、北アルプス地域における長野県森林づくり県民税を財源とした施策や森林づくり指針に関する事項について、皆様から幅広く御意見をいただき、私どもの施策や事業に反映させていただくことを目的に設置されているものでございます。平成20年度から導入した森林税でございますが、1期5年間の課税期間ということで、今年度は第3期目の終了年度にあたります。来年度以降の森林税につきましては、既に新聞報道等で目にされているかと思いますが、県議会の6月定例会の知事提案説明におきまして、「脱炭素化の必要性に鑑みて、森林整備の重要性・緊急性がこれまでになく高まっていることなどから、来年度以降の継続も視野に入れ、さらに検討を深めることが必要」と表明されたところでございます。今後、令和6年度から課税が始まる森林環境税との関係など様々な観点があるため、みんなで支える森林づくり県民会議での議論や市町村・県民の皆様との意見交換などを通じまして、検討を進めてまいります。

本日の地域会議でございますが、令和3年度の実施状況につきまして、白馬村で実施した事業箇所の現地調査を交え、ご報告させていただき、加えまして、第3期森林税の最終年度となる今年度の事業計画についてご説明させていただきます。また、県の森林づくりに関する基本的な展開方向を定めている「森林づくり指針」につきましても、現在改定を進めておりますので、ご意見をいただきたいと思いますと考えております。

本日は、限られた時間の中ではございますが、委員の皆様から、今後の北アルプス地域の森林づくりに向けた、幅広のご意見やご提言を頂戴できれば幸いです。よろしくお願いいたします。

## 3 現地調査

## 令和3年度森林づくり県民税活用事業 事業箇所

- ・木づかい空間整備事業（白馬村スノーボードショップ「round About」）



- ・みんなで支える里山整備事業（白馬村飯田地区 企業組合山仕事創造舎）



## 4 会議事項

### (1)北アルプス管内における森林税活用事業の取組状況

- ・ 令和3年度森林づくり県民税活用事業の実績 … 資料1
- ・ 令和4年度森林づくり県民税活用事業の実施 … 資料2

### 【荒山委員】

北アルプス管内で予算の未消化分があると次年度の予算が縮小されるのでしょうか。また、第3期目の森林税の北アルプス管内の執行状況に対する評価はどのようにされているのでしょうか。また、事業によって、すごく予算が使われているものと、全く実績なしの事業があると思いますが、令和5年度も森林税事業が続く中で、繰越予算は、どのメニューにも付けることができるのか教えてください。また、要望の多い事業に予算を流用することはできるのでしょうか。

### 【林務課 西澤企画幹】

管内で未消化予算があった場合でも、次年度予算が削られることはございません。森林税事業は県民の皆さんからの要望により予算付けを行っておりますので、要望が集中した場合は調整いたしますが、予算の未消化を理由に減額することはありません。

令和5年度の予算額については、令和4年度の7億円程度から法人分の1億3000万円程度と

少なくなりますので、各事業の予算額の割り当ては少なくなります。すべての事業は実施可能です。また、各事業の要望状況により、要望の少ない事業から多い事業に予算を流用し、県民の皆さんのニーズに対応した柔軟な事業の執行を行っています。

**【林務課 池上課長補佐兼普及林産係長】**

当管内の予算未消化については、要望に基づき予算を執行していますので、ほぼない状況です。

第3期森林税の実施状況につきましては、資料2-2で各年度の実施状況をお示ししておりますが、森林整備については非常に要望が多く、先ほど現地をご案内しました白馬村飯田地区など里山整備利用地域を令和元年、2年に設定していただきまして、県民協働などの事業を積極的に活用していただいております。一方、前回の地域会議でもご指摘いただきました森林の利活用事業につきましては、広報の方法など改善していかなければならない点があると認識しております。

**【鈴木委員】**

資料4の34ページの全体の進捗状況を見ると目標値に達していない状況ですが、32ページの森林税残高は少なくなっていますが、その差はどのような理由からでしょうか。

**【林務課 西澤企画幹】**

第3期当初は切捨間伐を中心に進めていましたが、要望が多い搬出間伐にシフトしたことにより、面積当たりの事業費が高くなり、事業費の割に実績が上がらない状況となっております。

**【森林政策課 柳原課長】**

説明のとおり、間伐の内容を変更した結果、事業費は伸びて実施面積は伸びない状況となっておりますが、最初の第1期、2期では、森林整備を重点的に取り組んできて、毎年7億円ぐらいの森林税に対して、あまり執行額が伸びない状況でかなり残高がありましたので、県民の皆さんのご意見をお聞きしたら、もっと身近な取り組みを増やしてほしいという意見がありましたので、これらの事業は第3期で新しく追加されたものが多く、それまでは森林整備の間伐が中心でしたが、ライフライン等の保全対策や学校林等の利活用促進などの事業が増えています。

ひとつひとつの事業を見ると目標に到達できていないものがありますが、特に普及啓発事業は、コロナの影響で活動できないなどいろいろな理由がありましたが、そのような新しい事業が入ってきたため要望が増えて、森林税の消化が進んだというのが実情です。

**【鈴木委員】**

面積や箇所数だけをみると達成していないようにみえても、森林税が有効に使われているということがわかりました。32ページの棒グラフと折れ線グラフの違いが理解できました。

**【橋本委員】**

資料2-1で、昨年度「みんなで支える里山整備事業」を白馬村飯田地区でかなりの事業量を実施しましたが、森林税事業の9割補助というのがかなり大きく、通常は7割補助で、あとの3割は木材の売り上げ等で賄うこととなりますので、今までできなかった箇所がかなりありました。実施できた箇所でも、難しい場所は申し訳ないけど区域から外して、できる範囲で行ってききましたが、税事業の9割補助ですと、事業体が儲かるというよりは、地域の要望に応えやすいということで非常に使いやすい事業となっております。

今年の予定は、間伐等1haと少なくなっていますが、我々は昨年度と同じぐらいの事業量を要

望しましたが、予算が付かなかったということでもよろしいのでしょうか。これは、事業体としてよりも、地域の要望が急にできなくなることが申し訳なく、事業体としては昨年度並みにやりたかったと思っています。

**【林務課 池上補佐兼普及林産係長】**

要望につきましては、昨年度と同程度の事業量をいただきましたが、資料4の32ページにありますように森林税残高が減っていますので、令和4年度は要望に対して予算が足りない状況のため、要望いただいた他の事業体にも通常の7割補助事業に移行していただいている状況です。

**【荒山委員】**

今のお話を聞いて、山仕事創造舎さんの様に所有者さんに代わって地域の山を管理できる組織は必要ですし、そこで大事なのは、所有者さんとの信頼関係だと思います。去年これだけ実施したけど、今年は急にこれしかできないとなると、所有者さんとの信頼関係に影響してくると思いますので、改善できればいいと思います。

**【森林政策課 柳原課長】**

森林税は5年間の超過課税で約35億入ってくるということで、どのように使うかを最初からお見せして進めてきましたが、結果的には、第3期はスタート時にいろいろな事業が追加されたため、事業要望に偏りが出て、予定どおりの活用が進まないため、繰越額が増えて、3年目、4年目は約10億円の執行額となってしまいました。本来なら今年ぐらいの執行額が標準ですが、予算の平準化ができなかったことをすごく反省しております。森林整備自体がすぐにできることなく、実施に至るまでに時間がかかることを考慮して事業を組み立てることが必要だった点は反省材料として考えています。今、第4期森林税については、基本的に継続した場合を前提に検討しておりますので、その点についてはしっかりと考えて皆さんにプランを示していきたいと考えています。

**【割田委員】**

事業要望の取り方はどのように行ってきたのでしょうか。他の部局からの情報の吸い上げ方など、他の部局の対応がよくみえてこないのか、森林税を積極的に活用する体制になっているのか、分かりません。年度途中で予算の消化状況を見ながら、予算の組み換えなどはどのように行ってきたのか、それは連絡調整を取りながら進めているのか、教えていただきたい。

**【森林政策課 柳原課長】**

第3期になり非常に事業が増えて、教育委員会や建設部などいろいろな部局の事業が加わってきたわけですが、このようになったのは、林務部に特化して使うのではなく、県民の身近な部分にも使ってほしいという要望により広げてまいりました。時限的な徴収と執行の関係なので、使い方を事前に明示して実施してまいりましたが、例えば、建設部に付けた予算を年度途中で他部局へ回すことは難しいですが、林務部中では予算を融通することはできますので、予算の組み換えを行ってきました。従いまして、年度の予算執行はある程度部局にお任せして、計画的な事業の執行については連携を取って行っております。また、林務部だけでなく、副知事をトップとした庁内の横断的な組織をつくり連携して行っているのが実情です。

**【荒山委員】**

確認ですが、令和5年度以降は、法人税分の1億3千万円以外はないということですか。

### 【森林政策課 柳原課長】

基本的には、森林税継続を前提に、どんなことができるか考えますということを知事が表明していますので、それに向けての課題を整理しているところです。今、皆さんに500円森林税としてご負担いただいておりますが、令和6年度からは森林環境税の徴収が始まります。今は東日本復興の財源として、皆さんに1,000円をご負担いただいているものが5年度で終了して、6年度からは森林環境税として徴収されます。市町村への配分は森林環境譲与税という形で始まっていて、長野県には18.7億円程度が配分される予定です。これは全国民の負担で、森林面積が多いところには多く配分されますので、都会の皆さんが負担している分が森林県である長野県に少し多めに配分されます。これは新しく始まる制度に使う財源ですが、市町村の課題に応じて使うことができます。仮に森林税4期目を継続すれば、県民の皆さんには500円と1,000円の森林に関する税負担をお願いすることになるので、それぞれの税の役割をしっかりと説明して皆さんに納得しご賛同いただきながら進めていくよう整理しているところです。継続に向けては、その部分の整理をしっかりと行っていかなければならないと考えています。

### 【荒山委員】

森林税がなくなるわけではないということを知りて少し安心しました。環境税と森林税のすみ分けは、重要だと思います。納得感を得るところでは、今日現地調査に行ったみたいに、実際に何に使われているのか、目に見えることが大事だと思います。森林が多い地域、特にこの北アルプス地域は、観光など他の地域からの関係人口が多い地域だと思うので、そのような人達が、例えば、ふるさと納税の森林版として特化した形で、自主的に払いたくなる仕組みを、実際に使われているものをツアーなどで見せることで、作れるかもしれないと思います。

## (2)次期森林づくり指針について

… 資料3

### 【鈴木委員】

北アルプスの5か年計画でも森林に関する記載がありますが、森林づくり指針との関連はどのようなになっているのですか。

### 【林務課 西澤企画幹】

5か年計画では、この地域の特徴であります広葉樹の利用を進めていくための取組を掲げており、今後も継続して進めていきたいと考えておりますが、指針となりますと、長野県全体の方向性を示すものとなりますので、直接的には関連してこないように見えますが、めざす方向性などは同じものと考えています。

### 【林務課 伊藤課長】

5か年計画は、これから5年間ですが、指針はこの先100年を見据えたものとなり、性格性が異なる部分がございます。皆様からは、これからの森林がこうあったらいいなというような率直なご意見をいただければと思います。

### 【橋本委員】

森林は伐期を迎えており主伐・再生林が必要という説明がありましたが、今まで間伐を実施する時は、一般の方に「木を伐ることは自然破壊ではなく、木を太らせるために木を伐る」と説明してきているため、これから主伐と言われても、非常にやりにくいと思っています。そのため、地域の人には主伐の必要性を周知することが重要と考えていますが、自分たちもそのように育っ

てきたので、主伐の時期、必要性はわかっているけど感情が追いつきません。林業経験者の自分でもそう思いますので、地域の人たちは主伐後の景色を見ると心配になると思いますので、よく説明することが重要です。

もう一つは、北アルプスに関してですが、指針を作るときなどでは、多面的利用というのが一番下に出てきて、広葉樹でも活用方法が中心で広葉樹自体のことは後回しになってしまいます。特に、白馬村や大町市もそうですが、田んぼから見える森林は、今のまま残すのがいいと思いますので、地域の人が山に入り森林を活用していくことが、北アルプスでは特に重要だと考えています。先ほど現地調査で行った白馬村飯田地区は、間伐後の作業道はトレイルランなどを使って人が山に入れる気持ちのいい山づくりをしようという気持ちで行っています。ですので、特に田んぼから見える山については、皆伐は合わないと思います。少し奥まった市有林や県有林、国有林などは、もちろん木材生産の場として計画していると思いますが、そのようなエリアの分け方がこの地域では特に重要だと思います。例えば、我々が造成してきた飯田地区の山を、仮に当社が潰れて他の会社が整備しようとした場合、前にどのような計画で実施してきたのかわからないため、県の指針を参考に実施しようとするすると皆伐されてしまうかもしれません。そのため、エリアの分け方が、特に重要となってくると思われます。

#### 【森林政策課 柳原課長】

主伐については、資料3のグラフもありますが、10年経っても年齢構成に変化がなく高齢級に偏っていることに非常に危機感を持っています。今取り組んでいる指針では、カーボンニュートラルなどに国を挙げて取り組んでいますので、森林吸収源対策についても丁寧に皆さんにお伝えする必要もあります。また、伐採して山が裸になるとすごく不安になり苦情などをいただきますが、主伐して再造林することの大切さ、意味合いなどを、伐った跡に再び木を植えることなどによって、山が更新されて森林のCO2吸収量が高まることなどをきちんお伝えることの必要性を実感しています。

森林の多面的機能については、県下全体の指針だとこのような内容になりますが、この地域は非常に広葉樹が多いので、広葉樹が多い地域の方向性を他でも展開していくことも非常に重要なことだと思います。針葉樹と広葉樹の比率を変えることが県の目標ですから、広葉樹がたくさんあるところで機能が発揮されているのかを伝える術みたいなものが必要と考えています。

作業道をトレイルランに使うというお話がありましたが、我々もその議論をしています。里山を整備しただけではなくて、里山を親しめる場とすることが非常に大切だと感じています。

また、ゾーニングというのが、これから非常に重要な要素で、どのような森林は保全し、どのような森林は利用していくかを議論していかなければいけないと考えています。いずれも非常に参考になるお話を聞かせていただきました。

#### 【荒山委員】

橋本さんの意見にすごく同感です。資料に労働生産性とありますが、労働生産性は効率だけでなく高付加価値化というものがあると思います。例えば、景観を楽しむことや森に親しむことなども、素材生産には寄らない部分での高付加価値化だと思います。現状の指針の中では、労働生産性が効率化だけの視点となっていますので、高付加価値化という視点も入れてほしいと思います。また、素材生産量の目標80万m3の達成が厳しいと説明がありましたが、それも材積だけではなく、どのくらい高付加価値をつけられたかという視点も大事だと思います。

また、3ページの記載で気になったのは、「めざす森林の姿」のポイントの中で、「針葉樹と広葉樹が適度に混交した森林」をめざす根拠が、これを読んだ限りだとちょっとふんわりしているなという印象を受けました。単に、そこをめざすのではなくて、結局、森林は人とのようなバランスを保っていくかに尽きると思いますので、ふんわりと針広混交林がいい山だからではなくて、広葉樹はあるけど出口はあるのかなどの視点を含めて検討していただきたいと思います。

先日、牛越大町市長と若者意見交換会でお話させていただく機会がありました。この地域は広葉樹資源が豊富ですが、広葉樹を利用するための乾燥施設がなく、地域内で高付加価値化できていない状況ですとお話しさせていただきました。この地域に欠けている製材、乾燥というものをどのように実装していけばいいかということと一緒に考えてくださいと話した時に、牛越市長からも製材が要だというお話をいただき、県レベル、地域レベルで指針のようなものを作っても、市町村レベルに下りないことにはアクションにつながらないと思いますので、そのような連携を是非取ってほしいと思います。

#### 【宮沢委員】

私は観光の立場で参加しておりますが、森林と観光では、人は森に入っても受身です。私は池田町ですが、特にコロナ禍でも、町でヤマザクラトレッキングなどを募集すると、すぐにいっぱいになります。人が山の中に入ることを非常に求めているような感じを受けます。特に池田町には観光資源がないですから、人が山に入る、地元の人がキノコを採りに入る、作業道の利用もいいですが、そのような機会がつかれたらいいと思います。木はどんどん大きくなりますので、非常に展望がよかった場所が、次第に木が伸びて眺めが悪くなり、人が行かなくなる。眺めがいいことだけで人を引き付けることができるので、特に北アルプスの眺めがいいので、そのような場所は維持することが必要と感じています。

#### 【割田委員】

指針の中で、林業従事者数が減少しているデータがありました。この原因は、これから主伐・再造林を進めるためには、植林をする人材を増やす必要がありますが、それに対する助成が十分でないことにあると思います。CO<sub>2</sub>を吸収する森林ですが、高齢な森林は逆に吸収量が少なくなり、木が成長していく過程でCO<sub>2</sub>の吸収量が高まりますので、伐期を迎えている森林を伐採して再造林することが必要です。今後、脱炭素化、カーボンニュートラルの面から森林の果たす役割は大きいと思いますが、結局、担い手がいいため主伐が進まない状況です。林業の労働環境は、まだまだ3kと呼ばれているように危険で低賃金な状況にありますので、儲かる林業にしていかなければいけないと思います。指針などではきれいな言葉で方向性を出していますが、現実問題働き手がいないう状況を変えていかなければ根本的な改善にならないと思います。

最近では、ウッドショックなどで外材が入ってこない状況ですから、これからは国産材を国内でしっかり使っていかなければいけません。そのためにも、公共施設で木材を使うことが必要です。昨年10月からは法改正により、民間建築物でも木材利用の促進が定められています。これはCO<sub>2</sub>の固定にも貢献するわけですが、なかなか木材利用が進んでいないのが現状です。特に公共施設、平成22年度に公共建築物等木材利用促進法ができてからも、この地域ではあまり公共施設への木材利用が進んでいません。法改正により民間建築物まで範囲が拡大されたため、やはり地

元の材は地元で使っていくことを進めなければいけないと思います。先ほど荒山委員から出された製材の問題ですが、材を出しても売り先、出口ができていないと進みません。森林組合でも作業員を訓練して製材所を動かす準備をしていますが、地元の材は、できるだけ地元で製材できるように組合の製材所を使っただけだと考えています。そのような意味では、組合の製材所ではなく、地域全体の製材所として役割を果たしていければと考えています。また、広葉樹もいろいろな形の使い方がありますので、今年は元気づくり支援金を使って東京に売り込んでいくことも考えていますが、木材の利用促進の面から、地元で生産して地元で消費するしくみを是非作ってもらいたと思います。

次に、森林環境税ですが、お話のあったとおり、今までは国民の負担がなかったわけですが、これからは、仮に森林税が継続されると、年間 1,500 円を負担することになり、まさに国民参加の税になります。その中で、環境というテーマが重要で、木を売って儲けるだけでなく、観光、環境、健康、教育など多面的な機能をもつ山を活用して山主にお金が戻るしくみをつくらなければいけないと思います。森林環境税は森林整備、特に人工林を中心に考えていますが、この地域は広葉樹が多いので、森林税を使って広葉樹を活用できるようにすることが必要ではないでしょうか。主伐・再造林を進めるためには、この地域のように急峻な場所では道を開けることも難しいですし、補助事業を使っても地元の負担が増えてしまうので、木を伐ってもどのように出すかが課題です。急峻な場所は、索道などが必要となるため、逆に昔の技術が活かされるようになるのではないのでしょうか。架線の技術者が減ってきているので研修会等の支援をしてもらいたいと思っています。

また、組合でも木質バイオマスボイラー用のチップ生産をしていますが、広葉樹を上手く使っていくために、山を持っている皆さんにも参加してもらい市民参加で脱炭素を進めようと考えています。みんなで脱炭素に取り組む必要性を北アルプスから発信できればいいと思います。そのような意味では、今も公共施設や民間施設では化石燃料を使って暖房をしていますが、木質バイオマスなど再生可能エネルギーを使う場合は、ボイラー施設を替えるなどの初期費用がどうしてもかかるため、その部分にもう少し大きな金額の支援がないと変わっていかないと思います。今、大町市はボイラー施設にも薪ストーブと同じように助成していますが、県はペレットストーブだけの助成となっているため、ボイラー施設の切り替え時も助成してほしいと考えています。

みんなで支える里山整備事業では小さな面積でも整備ができることなどから、森林税や森林環境税を活用し、県民参加で里山を整備していこうという機運が高まっていますので、このような整備を継続的に行うことが、人が山に入って手を入れることにつながるため、是非、森林税の継続をお願いしたいと思います。

いずれにしても、保育作業など林業従事者が少ないことが課題ですので、儲かる林業が実現できるよう、少しでもやる気が起きるような政策を考えてもらいたいと思います。

#### 【荒山委員】

森林組合や林業事業体などの組織を超えて地域でどう生き残っていくか、エリアの中でプラットフォーム的な考え方が必要だと感じました。製材に関しては出口がまだないというお話でしたが、近いところでは、伊那地域で地域材を使った出口づくりをしているところがありますので、その人たちを呼んで、出口から設計することなどもやっていきたいと思っています。製材のことを、是非一緒に考えていきたいと思いました。よろしくお願いします。

# 令和4年度第1回みんなで支える森林づくり北信地域会議概要

長野県北信地域振興局林務課

## 1 開催日時

令和4年8月5日（金）13時30分～16時30分

## 2 開催場所

長野県北信合同庁舎講堂及びWeb会議の併用開催

## 3 出席者

### 【構成員】

上野由希菜構成員、大西宏志構成員、高村秀紀構成員（座長）  
丸山真央構成員、宮崎正毅構成員、山岸洋子構成員（6名Web参加）

### 【林務部】

柳原森林政策課長

### 【北信地域振興局】

西澤林務課長、宮下企画幹兼林務係長、上野課長補佐兼治山林道係長  
永瀬森林保護専門員

## 4 会議事項及び説明資料

- (1) 森林づくり県民税活用事業の令和3年度実績について  
(説明資料1 令和3年度みんなで支える森林づくりレポートほか)
- (2) 森林づくり推進支援金の令和3年度実施状況について  
(説明資料2 令和3年度森林づくり推進支援金総括書)
- (3) 森林づくり県民税令和4年度の事業内容および目標  
(説明資料3 令和4年度 森林づくり県民税活用事業について)
- (4) 長野県森林づくり指針について  
(説明資料4 長野県森林づくり指針について)
- (5) 意見交換（森林づくり県民税に関する提案、その他）

## 5 構成員の皆様から頂いたご意見等

- (1) 森林づくり県民税活用事業の令和3年度実績について及び
  - (2) 森林づくり推進支援金の令和3年度実施状況について
- 北信地域の事業の利用率が他地域に比べて低い。「当てはまらないからやらない」ではもったいないので、北信ならではの事業を作るなど工夫が必要では。子供の木工体験の実績がゼロだが、学校では前年度に計画を立てづらい実情がある。リアルタイムで実施したくても「来年度で」となってしまうと出来ない。例えば、一定の予算枠を取っ

ておき、この会議での承認により執行できるようにするなど事業内容・施策等を検討してほしい。行政のような事業計画は民間等ではなかなか難しい面もある。

(事務局コメント：事業執行における行政と民間の違いは確かにあるので調整は必要と思われる。制度的な内容については県としての検討が必要なため地域会議の意見として本庁に伝えたい。木工体験については、今年度は計画がある。)

- 今年度の計画は、今年度になって計画したものを何とか吸い上げてもらったもの。せっかく森林税があるので、他地区との予算の調整等を含め、もっと使いやすくしてほしい。

(事務局コメント：当年度での対応等、より使いやすい事業とできるよう本庁にも伝えたい。)

- 「森林税の事業」というと役場では林務課しか見ていない。教育委員会や建設課は知らない。事業の照会等は、役場の中で幅広くできるようになると良い。さらに、学校にも照会したり、一般の人にもネットでの一般公募で知らせる等、うまく伝わる仕組みを考えていただきたい。

- 貴重なご意見なので、是非、県に上げていただき、ご検討もお願いしたい。一般公募というのも、そこから新しいアイデアが出そうで面白いと思う。制度を整えるのは大変かと思うが是非ご検討いただきたい。(座長)

(事務局コメント：第3期森林税では、林務以外の事業も進めてきたが、まだまだ余地があるということで本庁に伝えたい。)

- NPO 団体（森林整備・自然環境保全・環境教育等）にも情報がなかなか入ってこない。例えば、県のNPO 推進室から一斉に通知する等の取り組みを検討してほしい。
- 県産材のベンチ等について、森の家等の施設でもあれば良いとも思うが、先程の意見の「欲しいときに使えない」とか金額面の制限もあり、すぐ欲しい時はネットで（外材産製品を）購入してしまったりして勿体なく感じる。多くの人が訪れる観光・教育施設に県産材の製品がうまく行きわたるような方法を工夫していただきたい。資料2では1基10万円位のベンチを設置しているが、例えば、間伐材で組立キット（塗装処理等必要かもしれないが）を作って、欲しい人が自分で組み立てれば数万円になるのでは。また、カーボンオフセットに繋がるので、CO2 排出企業が購入費用を負担するようなスキームができれば、企業はCO2 削減目標で、施設利用者は県産材に触れる機会増加で、事業者は費用負担減で、それぞれメリットが生まれると思う。そのような事業化により短期的取組ではなく先につながる木材活用の方法として長野県がリーダーシップを図っていても良いのでは。

- 確かに（県産材の）椅子は高価。塗装、大工さん、配送等いろいろな手が入っている。今の「キット化」はとても良いアイデアで、塗装も自分でやっても木育になる。また、北信の観光地で統一性のあるキットも面白い。例えば、屋外で使うモデルとして統一すれば行政も発注し易くなりコストも下がってくると思う。「キット化」は面白い。

- 「キット」のアイデアは是非活かせると良いし「統一感」も良いと思います。北信で見

掛けることにより、そこからまた認知され印象に残るかもしれない。(座長)

(3) 森林づくり県民税令和4年度の事業内容および目標について

- 口頭でご説明いただいたが、北信の4年度計画一覧のような資料は無い？そういったものがないと計画内容の確認や前年度との対比等が出来ない。

(事務局コメント：一覧表未整理のため整理して追加で送付させていただきたい。)

- 北信として予算がどの位なのか。(令和3年度の)予算が2千3百万円で執行額も2千3百万円ということなら良いが、予算が多くあって結果として2千3百万円ということなら、科目間流用や協議会で決定して使えるような工夫がほしい。北信で使える金額の目安があると良いと思う。

(事務局コメント：予算の規模的なものは経年的にあり、また(各事業の)予算枠があるため、他地区での不執行など県予算の余裕額と当地域での要望をうまく調整していきたい。)

- 資料3の2ページ下段で予算額を「林務部所管」と「林務部以外所管」に分けて再掲しているが、分ける必要性があるか疑問。仕組みなのか分からないが、一般の方には、建設・林務・教育の分けではなく「森林税はこのように活用されています」と示していただければよいと思う。

- 3～4年ほど委員をしており、いろいろな方の意見をお聞きしているが、これらの意見が次年度にどのように反映されているのか、ご説明いただければ嬉しい。

- フィードバックは大事だと思われるし、全てとはいかなくても、どこまで近づけられたか、どこまで検討したか等、現状では、このような振り返りは如何でしょうか。(座長)

(事務局コメント：同様な意見が出ていることも見受けられ、毎年開催する以上は次回に反映していく必要があると認識している。考えていきたい。)

- 構成員としても、意見に対して進捗や課題が見えれば、前に進んでいけるので是非お願いしたい。

(事務局コメント：昨年は書面決議等のため、やり取りが出来なかったことは反省点としたい。本日いただいたご意見についても、おっしゃる通りと思えるものや、行政の会計制度上困難なもの等あるが、場面場面に応じた事業執行の中で対応していきたい。林務部への伝達や意見へのフィードバックもしていきたい。先ほどの一覧表についても別途お届けするので、忌憚のないご意見をお願いしたい。)

- 県の会議(森林づくり県民会議)の内容も私たちはあまり知らない。地域会議の意見が県民会議でどのように審議されどうなったのか、県民会議の内容や最終決定を教えてください。

(事務局コメント：この地域会議の内容は、県民会議での議論の参考とされることとなっているので、内容・結果等について皆様にフィードバックさせていただきたい。)

#### (4) 長野県森林づくり指針について

- 森林環境譲与税と森林税の違いを一般の方にどう説明できるのか。譲与税はほとんど使われておらず目に見えない。7・8割を基金に積立している県の話も聞くが、譲与税は、山主を（森林）整備のために見つけてもらいたい。森林税は、県民の皆さんに身近なものとしてほしい。山の整備ばかりで出口の方が無いが、伐ったから地元で使うという仕組みのため使うのが森林税ということなら皆さん納得すると思うので、差別化をしっかりとしてほしい。

あとは、森林を増やしていくなかで、まず足りないのは木こりさん。で、県産材はもうこれ以上作れない。製材工場が無いからで、いくら（材を）出しても製材工場整備をしない限りは県産材として普及はできない。今でも、私たちは一杯。なぜなら、乾燥機が無いから。いくら挽いても乾燥機が無ければ製品として売れない。山の整備とともに製材業等産業の方の支援もしていただかないといけない。

また、木こりさんは月給制にしていかないといけない。日給では「自動車ローンが組めない」・「カードが作れない」という話も聞いた。月給固定給にするには、どうすれば良いか考えないといけない。長野県として、全国共通の戦いの中に入るのか、長野県独自の単価があって良いのか。独自の単価にするのであれば公共施設も独自の単価とするのか、考えなければいけないと思う。製材工場も10万m<sup>3</sup>挽く工場と5千m<sup>3</sup>の工場では戦いにならない。これを合わせるため、経費節減ばかりでは可哀そうで、長野県としての適正単価があっても良いし、建設においても全国平均の物価版単価とするのではなく県内で循環する仕組みが理想ではないかと思う。山ばかり伐って全部、県外へ出して終わるのでは、林業県にはなれないと思う。ある程度、県内で循環してこぼれたものが県外へいく仕組みのための森林税・譲与税であってほしいと思う。

(森林政策課長コメント：今の「仕組み」の部分は知事との議論の中でも正に同じ話が出ており、林務部内でも、乾燥機や伐り手不足の話も正に同様。問題意識が高い部分なので今までの延長線上ではない取組みも必要と考える。全国との知恵比べとなってきているので部を挙げて取り組んでいきたい。森林税と譲与税についてもおっしゃるとおりで、県だけでなく市町村の皆様とも同じ気持ちで取り組めるよう整理していきたい。)

- 資料1の中に「森林の多面的機能の恩恵が年間一人当たり150万円」とあるがこの恩恵が県民の方に伝わりづらいと思う。仕事で子供達を森林につれていく機会があるが子供が森に足を運ぶ機会が少ないと感じる。先生や親御さんも自然に触れていないことが感じられ、このような状況で、「自然を守る」とか「ゼロカーボンが必要」と言っても一般の方には中々理解できないと思う。子供達が森や自然に親しむことを通じ、このような問題を考えられる大人になると思うので、自然に触れ合える機会を作っていくことが大切であり、これは県だけでなく我々皆で担っていくべき課題。このようなところにも森林税を活用できないかを感じる。欧州等では、家のすぐ裏が森になっていて家族で親しんでいる光景をよく見るが日本では少なく残念。ゲームのプログラ

マーになりたい子供はいても、木こりになりたい子供はいない。イメージできないから。

こういう環境は必要になってくるし、その中から森林整備を重視する人もでてくるのでは。

(森林政策課長コメント：森林環境教育の面から、幼少期に野外での体験があると自己肯定感が高まるデータがある。第3期森林税で学校林を整備したが、今、子供が勝手に森に入って楽しむことができない世の中になっている。今後の方向性として、身近に、だれでも親しめる森があることが大事。どういうデザインが市民に親しまれるのか考えてきたい。先日、フィンランドの皆さんと交流機会があり市民と森との距離が非常に近いとの話を伺った。日本では難しい面もあるが、県としても、できることを真剣に考え取り組んでいきたい。

- 「木こり」の話があったが、実際、若い方で興味を持って就業希望する人がいても給与の面や実際の仕事とイメージとの違いがあったりして職員の人数が足りず、計画どおりに森林整備ができない状況がある。やはり、木こりのイメージを変えていかないといけないと思う。今、戦後植林され伐期を迎えた木を伐らないと、大きくなりすぎて伐採も製材も大変になり価格も下がり山主さんも「山を持っていても良いことがない」という気持ちになってしまう。本当に、伐るなら今なので、森林に興味を持ってほしいし、森林税を上手く使って県民の皆さんに木を使うことをアピールすることも大事だし、実際に使えば、木の家やおもちゃに癒されたり木の良さも分かって使用量も増えて、山主さんの収入も、木こりの給料も上がっていくのではないかと思う。

(森林政策課長コメント：林業就業者の処遇改善は本当に重要であり、なり手の問題としては、いかに森林関係人口を増やしていくかが重要であることを再認識させられた。)

- 子供達にどう教えていくかについて、小学5年の3学期に森林の大切さを教えることになっているが、6年生への進級直前で忙しくて飛ばしてしまうらしい。小学校では時間を割いて教えないので、林務課で請け負って、山の大切さ、木こりの大切さ、製材等について教えるぐらいの仕組みを作れば、長野県すごいね…となるのでは。そこで興味を持ってもらってから NPO 等と一緒に山に入ることに繋がっていくと嬉しい。小学校、高校での授業もさせてもらっているが、SDGs の話は企業も高校生も敏感。17項目のうち（森林・林業が）十何項目に関わっていることを教えていく義務もあると思うし、林務でもこういった教育をやってもらえると嬉しい。それについては、いくらでもお手伝いしたいし、是非、一緒にやればありがたいと思う。

(森林政策課長コメント：SDGs の教育について、子供の吸収力は大人に比べて凄く 17 のターゲット全て言えるくらい。子供達の吸収力を考えると、大人がどれだけ本気になるか…だと思っている。先程から、いろいろな垣根や縦割り等の課題についてお聞きしており我々もそこを打破できないもどかしさもあるが、何か突破口を作って広げていくよう頑張りたいので、その節は御協力いただきたい。

- ありがとうございました。では、全体を通して何かお気付きの点やご要望など自由な

観点からご発言ありましたらお願いします。(座長)

- よろしいですか。それでは、各構成員から貴重なご意見ありがとうございました。ご意見ご提案など十分お出しいただいたので、これで意見交換を終了します。(座長)